

教育効果の視覚化を念頭に置いた先進的な教育手法としては、「『実学』を活用した教育方法の改善（H25～H27）」を活用して、「スマートデバイスを活用した大講義室におけるコミュニケーション・ラーニング」のノウハウを開発・実践しました。これは反転型講義手法を導入して予復習で得た知識や問題意識を講義時間により多くの他学生と共有したり議論したりするコミュニケーションを重視した講義設計で、さらに大学生にほぼ定着したスマートフォンを用いて、対面コミュニケーションとテキストコミュニケーションをマルチスレッドでシームレスに行いながら、多様な価値観との接点を増やすまったく新しい受講体験を生み出しています。また現実的な側面として、効率性やコスト増、学生の参加意欲の維持などの面でアクティブ・ラーニングの導入が難しかった大型教室・大人数クラスの教育の質を向上させると同時に、学生間のコミュニケーションの記録をとってその内容をある程度検証することが可能な画期的な教育手法として本学が民間のベンダーと共同で開発したものです。実際の講義の様子や学生のコメントは専用アプリケーションの紹介ウェブサイト（<https://respon.jp/>）を参照願います。



写真：スマートデバイスを用いたコミュニケーション・ラーニングの様子（総合科目Ⅱ）

3. 「エバーグリーン講座」におけるアクティブ・ラーニング手法の導入とその効果について

総合科目Ⅲ（エバーグリーン講座）は、公益社団法人緑丘会の全面的な支援により、実社会で活躍する幅広い世代の卒業生を特別講師としてお迎えして開講する連続講義です。卒業生自らが自身の経験に基づくりアルな言葉で語ることにより、現役学生の卒業後のビジョンを明確にすることと同時に、

学生時代に「何をどのように学ぶか」について示唆を与える機会を提供するのがこの講義の目的です。エバーグリーン講座は平成 27 年度で開講から 29 年目を迎え、300 名を超す先輩方が本学の教壇に立たれている歴史のある講義です。また昨年度からは、緑丘会宮城支部ならびに緑丘会阪神支部からも講師のご推薦をいただき、ますます講義内容の厚みが増すとともに緑丘会と大学の連携および緑丘会会員同士のネットワークの強化にもいささかの寄与をしているものと思われます。

平成 25 年度以降、このエバーグリーン講座においても「社会人基礎力の育成」といった観点に立ったアクティブ・ラーニング教育手法を導入しました。具体的には以下の要素を取り入れたいわゆる反転授業を実現しています。

- ・ 学習管理システム（LMS）の全面的活用
- ・ 事前レポート（予習）による予備知識と問題意識の獲得
- ・ 事前質問による社会人講師と学生のコミュニケーション支援
- ・ 受講レポート（復習）による理解定着
- ・ 予習を重視した評価配分（※事前課題未提出者は出席認めず）

The screenshot displays the LMS interface for the Evergreen Course. At the top, it shows the date 2014-02-17 (Mon) and user information (大津 晶 | 設定 | ログアウト). The course title is '総合科目III エバーグリーン講座'. Below the title, there are navigation tabs for 'マイページ', 'コース', '出席カード', and 'English'. The course is managed by '2013 後期 水曜 3限'. The main content area is divided into three sections: 'コースニュース' (Course News) listing recent lecture summaries with dates, 'スレッド (更新順)' (Threads) showing a discussion thread, and 'コンテンツ (更新順)' (Contents) displaying a grid of lecture materials with titles and timestamps.

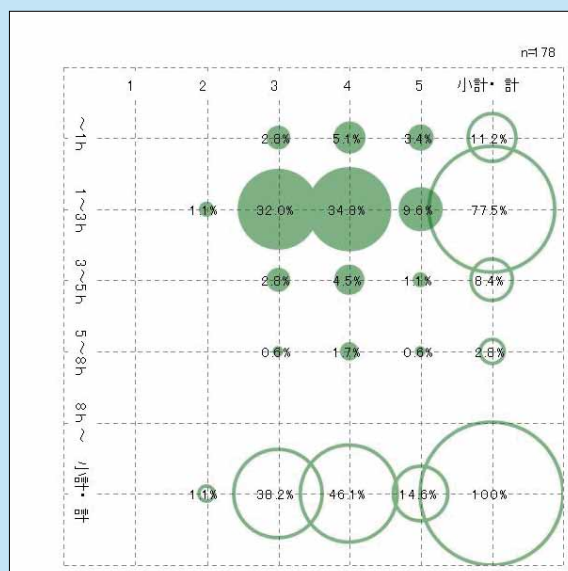
図：エバーグリーン講座の課題等管理用の LMS 画面

さらに、平成 26 年度には学生の学習効果の測定を詳細に行い、同講座の受講動機と受講満足度を計測しました。調査の概要は以下の通りです。

- ・実施時期：平成 27 年 2 月
- ・対象：エバーグリーン講座受講学生（約 250 名）
- ・アンケート項目：
 - ・授業改善アンケート同等設問
 - ・受講動機
 - ・受講感想
 - ・事前課題と授業外学習時間など
- ・回答方法：LMS（manaba）経由
- ・有効回答：178

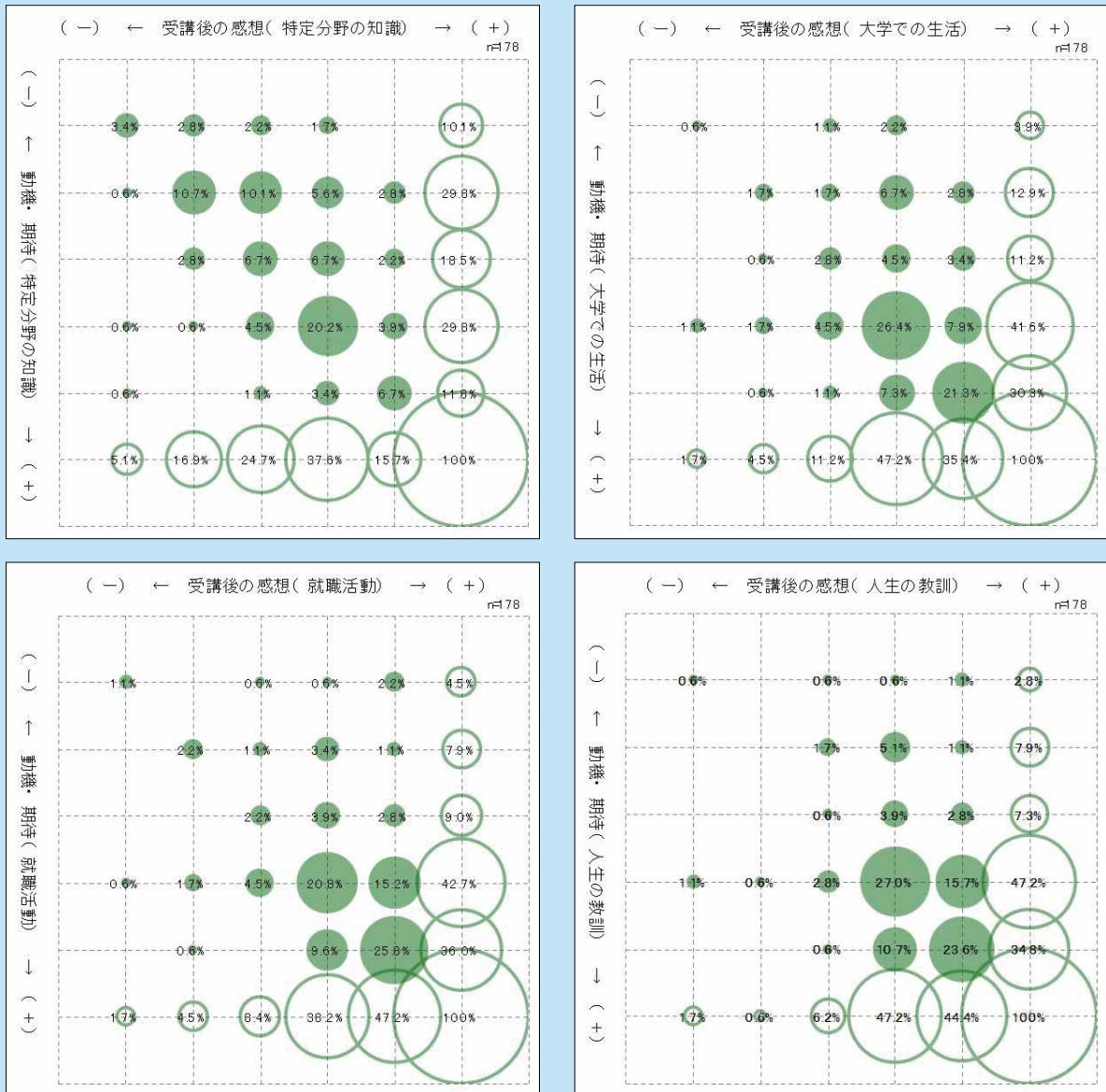
○予復習の時間と負担感

下図は縦軸に 1 回の講義あたりの事業時間外学習の時間、横軸にその負担感（数字が大きいほど課題がたいへん）を示したバブルチャートです。これを見ると、6 割強の受講生が各回の講義のための事前課題レポートの作成に 1～3 時間程度費やしており、その負担はちょうど良いとまあまあたいへんで半々に分かれるということが分かります。



○履修動機と感想

すべての講義を受講した後に、本講義を受講した際の動機、つまり本講義に期待した内容や獲得することができると思った要素の程度と実際に受講してみても得られた感想を調べました。以下の4つのバブルチャートは、①特定分野の知識、②大学での生活、③就職活動、④人生の教訓について、受講する前の動機や期待の程度を縦軸に、実際に受講した上でその期待がどの程度満たされたかを横軸に表示したものです。

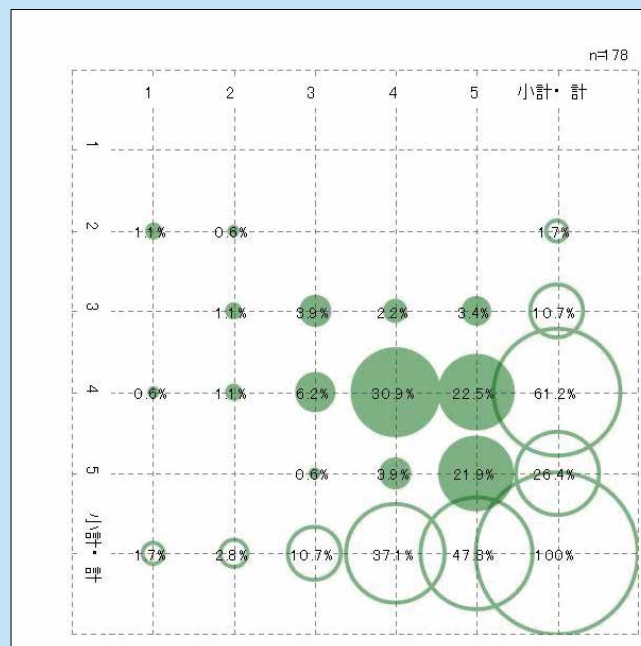


図：受講動機と受講後の感想

全体の傾向としては、およそすべての要素について本講義に対する期待感と実際に受講した際の充足感はいずれも高いということが分かります。その中で比較的「①特定分野の知識」については、シラバスなどで本講義が専門科目ではなく、卒業生による連続講演であることを周知していますので学生は正しく理解していることが読み取れます。むしろ一定程度の期待と満足を得ているクラス（20.2%）や、あまり期待をしていなかったが意外にそのような知識も得られたクラス（5.6%）もいることは興味深い結果です。また「大学生活を送る上で役に立つ知識」において、やや低めの期待にもかかわらず比較的高い充足感を得ているクラス（6.7%）がいるのは、社会や企業の仕組みや将来の仕事のことといったテーマに加えて、講師自身が語る学生時代の話から、大学時代に経験すべきことや学んでおくべきことについて貴重な示唆を得ていると解釈できるでしょう。

○講義の理解度と受講満足度

一般に、講義の理解度と満足度には高い相関があることが知られていますが、エバーグリーン講座は学外の社会人によるオムニバス講義であり、講義内容に仕事やキャリアに関する内容、言うなれば“本来分らないはずのこと（社会に出たら納得すること）を分からせる”という極めて難しい構造を有しています。下図は縦軸に講義全体の理解度、横軸に講義全体の満足度を表示したバブルチャートです。



図：講義の理解度と受講満足度